



全国高等学校駅伝競走大会に出場する平山さん

## 八千代松陰高・平山さん全国へ 男子第74回全国高等学校駅伝競走大会

八千代松陰高校3年・平山かいり権史さん(若潮町)が、男子第74回全国高等学校駅伝競走大会に出場します。

同校は、10月28日に開催された千葉県予選で、7区間42.195kmを2時間6分46秒で走り、2位に2分56秒の大差をつけて見事優勝。平山さんは、最終7区の5kmを走るアンカーとして出場し、15分4秒を記録して区間賞を獲得しました。

11月27日に市役所を訪れ、全国大会への出場を宮内市長に報告した平山さんは、「大会へ向け調子を上げていって、大会ではいい記録を出せるよう全力で頑張ります」と意気込みを語りました。

※大会は、12月24日に京都府で開催されました。

## 竹馬、乗れるかな?

### 「平和っ子、親子で一緒に遊ぼう会」4年ぶり開催

昔ながらの遊びなどを通じて、地域の子どもと大人が世代を超えて交流を図る「平和っ子、親子で一緒に遊ぼう会」が、12月2日に平和小学校で行われました。

これは平和地区社会福祉協議会主催で4年ぶりに開催されたもので、児童や保護者など約300人が参加。参加した子どもたちは、べいごまや拳玉、竹馬などの昔ながらの遊びを大人に教えてもらいながら楽しんだ他、焼き芋や豚汁、お餅などを味わいました。



▲体育館で拳玉を楽しむ子どもたち



▶校庭で竹馬の練習中

## 第1回住民説明会を開催

### 新インターチェンジ周辺への企業誘致

銚子連絡道路(二期)の終点部である「(仮称)八日市場インターチェンジ」周辺において企業誘致を計画する産業用地整備推進事業に関する住民説明会が11月17日、市民ふれあいセンターで開催されました。



▲住民説明会の様子



◀事業の詳細はこちら

本事業は、銚子連絡道路(二期)や圏央道(大栄～松尾横芝)が令和5年度以降に開通予定であることを受け、そうした整備効果を地域の活性化につなげるため、産業用地の整備を進めることで企業誘致を推進するものです。

当日は、中央地区や須賀地区の住民など58人が参加。事業内容やスケジュールなどを説明した後、宮内市長が「本市が活性化するためには産業用地を整備することが何より重要です。ご理解をお願いします」と締めくくりました。

## “散歩のまち匠”を巡る

### 市民オリエンテーリング大会・ふれあい散歩

#### ◆野山を歩き回る——市民オリエンテーリング大会

天神山公園を中心とするコースを巡る市民オリエンテーリング大会が11月3日に行われました。マップをリニューアルした今回は、子どもたちや家族連れなどが、地図を片手に野山を歩き回りました(=写真1)。

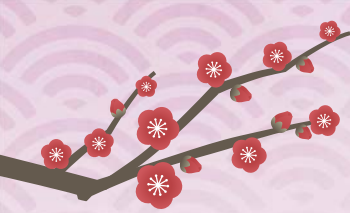


#### ◆匠地区の自然と文化を鑑賞——ふれあい散歩

匠地区の松山神社周辺を、健康・体力増進などのために歩く「ふれあい散歩」が11月26日に行われました。今回

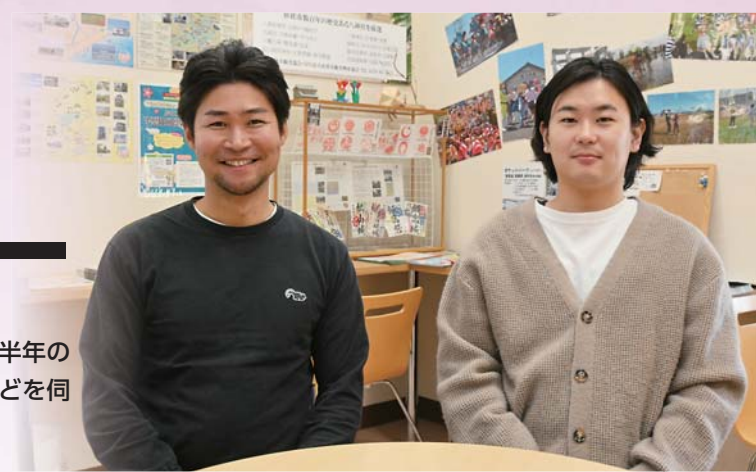


のルートは、「散歩のまち匠」の「松山神社周辺散歩」のコースをアレンジしたもので、参加者は、匠地区の歴史ある寺社や紅葉を味わいながら散歩を楽しみました(=写真2)。



# 地域おこし協力隊 新春インタビュー

地域おこし協力隊の活動を始めて約1年の北條将徳さんと、約半年の鈴木優介さんに、これまでの活動の経過や気付き、新年の抱負などを伺いました。



—まずは、地域おこし協力隊としてどのような活動をしているかを、改めて教えてください

**北條** 移住促進や新たな地域資源の発掘など、主にシティプロモーション活動をしています。魅力発信の“基地”として、「フードパントリーそうさ」を発足した他、ブックカフェ&リユースのお店「ぐるり」を準備中です。

**鈴木** 観光情報の発信や観光資源の磨き上げなどを行っています。また、匝瑳市をより深く知ってもらうために、観光情報だけでなく幅広く市の情報を発信しています。

—活動してきて新たに気付いたことや発見したことはありますか

**北條** やって行く中で、ターゲットを設定してそれに合わせて発信すべきだと気付きました。ただ、課題解決や新しい魅力作りは一朝一夕にはできないので、「フードパントリーそうさ」や「ぐるり」を始めて、そこを拠点に魅力発信の仕組みを作り、ターゲットに向けて発信を行うようにしました。

**鈴木** 地域おこし協力隊を始めて、市民から「この情報を発信してほしい」

と言われるようになり、新しいことを始めたい人が結構いるということが見えてきました。「新しいことを始めたいけど、成功するか不安」という人も多いため、そういったチャレンジのハードルを下げていきたいと思いました。

**北條** 協力隊の仕事は、変化を作ることだと思います。協力隊が一人二人増えても、従来と同じ考えや発想のままでは、地域の課題を解決するのは難しいです。なので、今までとは違う発想、変わった仕組み作りなどでの変化が必要かと。

**鈴木** そうですね。別の角度、別の方向からのアイデアを出し続けなければならないと思います。現状維持させることも大切ですが、安定志向過ぎると新しいアイデアは生み出せないかと思っています。

**北條** 鈴木さんが言っていることはまさに地域おこし協力隊のジレンマで、地域になじまなければ協力隊の活動はうまくいかないけど、かといってなじみ過ぎると協力隊の武器である“よそ者”の発想が消えちゃうという…。

**鈴木** “オン・オフ”を切り替えてやっていくことが大事かなと思います。—地域おこし協力隊が二人になって、役割分担などはどう考えますか

**北條** 全く同じことをやっても仕方がないし、全く違うことをやっても仕方がないので、やりたいことやできることに応じた役割分担が重要だと思います。鈴木さんは、どっちかという市内外向けに情報発信する役割で、自分はむしろ仕組み作りをコツコツとやっていこうと思っているので、ちょうど良くばらけているかなと思います。



鈴木優介さん



▶ Instagram

**鈴木** 活動が被るところがあってもいいと思っています。同じことについても視点が異なると思うので、北條さんは北條さんの視点から、僕は僕の視点から、一緒にできることは一緒に盛り上げていければと思います。協力隊としてのゴールは同じだと思っています。

**北條** 将来さらに協力隊が増えたら整合性を取らないといけないと思います。協力隊全体としての方向性などをはっきりさせる必要があるかと。

—最後に、新年の抱負をお願いします

**鈴木** より多くの人に匝瑳市の情報を届けられるよう、現地に行って取材などしますので、その際にはぜひお話をお聞かせください。

**北條** 今年は新たにインターチェンジができるなど、市の変革の年になると思います。今年やらなきゃ来年できませんよ！一緒にやっていきましょう。

北條さん、鈴木さん、ありがとうございました。次号から、地域おこし協力隊のコーナーは二人で交互に掲載していきます(次号は鈴木さん)。



北條将徳さん



◀X (旧Twitter)



▶Instagram